

第9節 外国語

第1 本資料の活用について

1 作成の基本的な考え方

中学校学習指導要領及び埼玉県中学校教育課程編成要領の趣旨を踏まえ、「これからの国際社会に生きる日本人として、世界の人々と協調し、国際交流などを積極的に行っていきける資質・能力を養う観点から、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力を総合的に育成する」指導を充実するための具体的指導例を提示する。

指導事例の作成に当たっては、以下の点を踏まえることとした。

- (1) コミュニケーション能力の基盤となる基礎的・基本的な知識や技能の習得については、繰り返しによる指導を重視する。
- (2) 小学校段階での外国語活動を通じて、音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度等の一定の素地が育成されることを踏まえ、コミュニケーション能力を総合的に育成するための指導内容の改善を図る。
- (3) 「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう、4技能を総合的に育成する指導を充実する。
- (4) 「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4技能の総合的な指導を通して、これらの4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成する指導を充実する。特に、各学年において授業時間数が年間35時間増加することを踏まえ、言語活動の一層の充実を図る。その際に、今回の学習指導要領の改訂により、新たに加えられた言語活動の指導事項を重視する。
- (5) 文法をコミュニケーションを支えるものとしてとらえ、文法指導を言語活動と一体的に行うよう指導の改善を図る。
なお、言語活動を行う際には、言語の使用場面や言語の働きに配慮した指導に努める。

2 取り上げた内容

埼玉県中学校教育課程編成要領に示された指導内容と年間指導計画に基づき、具体的指導事例を示した。

- (1) 基礎的・基本的な知識や技能の習得のための指導資料
 - ア 話すことや書くことを反復練習し、言語材料を定着させる指導事例
 - イ 関連する既習事項の復習をおりませて定着を図る指導事例
- (2) 小学校における英語活動との円滑な接続を図るための指導資料
 - ア フォニックスによる綴りと発音の関係の理解を図る指導事例
 - イ チャンツを取り入れた指導事例
 - ウ 自己紹介文を英語で書かせる指導事例
 - エ キーワードゲームを取り入れた指導事例
- (3) 4技能を総合的に育成するための指導資料
 - ア 身の回りの物を説明する英語を読んだり書いたり、話したりする活動の指導事例
- (4) 複数の技能を統合的に活用し、コミュニケーション能力を高めるための指導資料
 - ア まとまりのある内容の英語を書き、発表し、その内容について質疑応答を行う活動の指導事例
 - イ 音読指導を通して基礎的・基本的な知識や技能を定着させ、「書くこと」や「話すこと」につなげていく指導事例
- (5) 文法指導を言語活動と一体的に行うための指導資料
 - ア 言語の使用場面を設定し、言語の働きを明確にした言語活動を取り入れた指導事例

3 実践化への配慮事項

本資料は、学習指導計画作成に当たり、参考とするための資料として作成されたものである。各学校においては、本資料に示した事例を参考にして、地域社会や学校、生徒の実態等を踏まえて創意工夫を生かした指導計画を作成し、実践していく必要がある。

また、道徳の時間などとの関連を考慮しながら、外国語科の特質に応じて適切な指導をすることが大切である。その際、埼玉県中学校教育課程編成要領及び小学校英語活動で使用している「英語ノート指導資料」等を併せて活用願いたい。

第2 指導計画作成のための資料

(1) 基礎的・基本的な知識や技能の習得のための指導資料

1 指導事項について

英語を理解し、英語で表現できるコミュニケーション能力の基礎を養うためには、語順や語い、文法を頭の中にしっかり定着させることが必要である。

そのためには、『生徒のレベルに合わせた英語を使用する。学習内容を反復練習させる。生徒が集中して取り組める学習活動を工夫する。英語そのものに触れる量を増やす。』を意識し、日々の授業を展開することが大切である。

本事例では、前述の事柄に配慮しながら、教科書を活用し、英語を運用できる基礎的・基本的な知識や技能の定着を図る事例を紹介する。

2 指導事例

以下に示す事例は、授業開始後数分を利用し『毎授業』繰り返して行うことによって、英語を運用するための基礎的・基本的な学習内容の定着を図るものである。また、活動していく中で生徒の学習意欲が高められ、自主学习につながるよう教師が意識し、指導を継続していくことで、より確実な定着が期待できる。

(1) 単語レベルで語いの定着を目指す活動例

〈活動のねらい〉

ビンゴは、どの生徒にとっても理解しやすく、楽しく活動に参加することができる活動である。楽しい雰囲気の中で学習意欲も高まり、語いを増やしていくことが期待できる。

〈指導手順〉

- ①これから学習する課から語いを選び、ビンゴを作成する。
- ②発音の確認をし、空欄を埋めさせる。授業の中で埋める時間がなければ、宿題にしてもよい。
- ③“Well,” “Already said.” “Pardon?”など、生徒が活動中に、積極的に英語を使えるようにシートの上の役立つ表現を練習させる。
- ④生徒は、教師が読んだ語いを聞き、自分が埋めてきたビンゴシートにその語いがあれば消していく。縦、横、斜めのいずれかの1列が5つそろったら終わりとなる。クラスで5人終わった生徒が出たところで活動をやめる。

〈定着を図るための工夫〉

1回で終わりにせず、4回以上、同じシートに取り組みせ語いに慣れさせる。語いを3回聞かせるだけでなく、声に出して繰り返し言わせると、生徒の英語に触れる量が増える。また、生徒に単語を読ませていく方法にすると、集中力が増し、意欲をもって活動に取り組むようになる。

ビンゴの活動で役立つ英語表現

ええと(Well...) もう言ったよ!(Already said.) もう一回言って!(Once more.) 何?(Pardon?) 君の番だよ(Your turn.)				
Let's enjoy SUPER BINGO! (L7 & In Your Word)				
B				
I				
N				
G				
O				
B	look (見る) / these (これらの) / bottle (びん) / can (～することができる) tell (～を見分ける) / shampoo (シャンプー) / conditioner (コンディショナー)			
I	know (知っている) / smooth (なめらか・つるつる) / blind (目の不自由な) people (人々) / difference (違い・差) / interested (興味を持った)			
N	say (～と言う) / mean (～を意味する) / those (あちらの・それらの) dot (点) / Braille (点字) / as (～として) / volunteer (ボランティア)			
G	us (私達・を) / sure (もちろん) / use (～を使う) / sheet (1枚の紙など) word (言葉・単語) / team (チーム) / his (彼の)			
O	her (彼女の) / teacher (教師・教える人) / years old (～才) / nickname (あだ名) him (彼に・を) / much (たくさん・とても) / everyone (みんな・だれでも)			
Class		Name		

(2) 意味のあるまとまり(チャンク)で語い・語順、修飾の仕方を身に付けることを目指す活動例

〈活動のねらい〉

語い数を単に単語レベルで増やしてだけでなく、いくつかの語いを意味のあるまとまりで覚えさせることで、英文を作るための語順や修飾の仕方を身に付けさせることが期待できる。

〈指導手順〉

- ①教科書の2、3レッスンが終わったところで、25～30程度のチャンク

near Australia	オーストラリアの近く
a high school student	高校生
that tall boy	あの背の高い少年
a junior high school student	中学生
my classmate	私の級友
my new classmate	私の新しい級友
play the guitar	ギターを弾く
a baseball fan	野球ファン
a very good cook	とても料理のうまい人
a very good player	とてもまい選手(うまく弾く人)
have a hot dog	ホットドックを食べる
go to juku	塾に行く
on Monday	月曜日に

クを選び、前ページのような練習シートを作成する。

②ペアでどちらが先に行くか決めさせる。先に行く生徒は、シートをパートナーに渡し、本日の目標数を伝える。

③先に行く生徒は、教師の合図から2分間で、パートナーの言った日本語を英語に直していく。

④後に行く生徒は、パートナーがいくつ言えたか数える。パートナーが言えない場合はヒントを出す。全く言えない場合は答えを教え、繰り返し言わせる。時間になったらパートナーと役割を交代する。

〈定着を図るための工夫〉

活動意欲を持続させるために、時間内で終わってしまったら、2度目に取り組みせ、言えた数が増えていくことが実感できるように記録させる。日記や英作文などの書く活動を通して、既習のチャンクを使い英文を完成させる経験をさせると定着しやすくなる。また、教師がシート内の語いを1つ取り上げ、生徒に英文を作らせることも効果的である。

(3) 基本文の習得を目指す活動例

〈活動のねらい〉

下学年の教科書は、生徒たちにとって身近なものであり、活動を工夫することで、もう一度触れる機会を作るものとなる。また、英語が苦手な生徒に反復して取り組ませる機会を与えたり、理解している生徒の定着を促したりするなどの効果もある。わずか数分間の活動ではあるが、英語が苦手な生徒、得意な生徒ともに英語力を高めるための基礎的・基本的な知識や技能を身に付けることが期待できる。

〈指導手順〉

①下学年の教科書や、すでに終わった課より問題を出す。現在学習している内容と関連する内容を扱った課を選ぶこともできる。

②教師は選んだ課の初めから英文を読む。

③問題の英文が含まれたところで読むのをやめ、生徒は教師が最後に読んだ英文を聞き取って解答欄に答えを書く。

④教師は答えを黒板に書き、生徒は各自答え合わせをする。その後、日本語訳も確認する。

⑤英文を30秒間繰り返し、何回言えたかを記入する。その後、1分間の音読筆写 (Read and Write) に取り組ませる。

<p>Answer</p> <hr/> <p>Japanese</p> <p>Read! Read! Read! I read () times. . . . 30秒</p> <p>Read and write! . . . 1分</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>生徒はこのスペースに1分間で、答えの英文を声に出しながらできるだけたくさん書いていく。 教師は時間を計りながら、机間指導し、生徒がどこで間違えが多かったのかを観察する。</p> </div>	<p>Ans.</p> <p>正解!</p> <hr/> <p>Read!</p> <p>Read!</p> <p>Read!</p> <p>Read and Write</p>
---	---

〈定着を図るための工夫〉

単なる答え合わせで終わるのではなく、その後の意味を確認する・何度も繰り返し音読する・何度も声を出して書くという活動で、どの生徒に対しても基礎的・基本的な知識の確実な定着を図らせる。出題する英文が含まれている課を事前に生徒に知らせることで、自主学習に励む生徒も増えてくる。

また、自主学習で練習した英文を何行ノートに書いたかを1ヶ月ごと、1学期ごとに掲示したり、右のような通信を配ったりしていくと、仲間の努力に励まされ、頑張る生徒も増えてくる。

学年末は、1000行以上書いて練習した生徒を学年集会で表彰すると、温かい雰囲気、次年度への学習意欲へとつなげることも期待できる。

Saitama Junior High School

Class	No
Name	
No.	17
2022.11.5	

10月で自学を頑張った人達

さあ、今月は新人戦も終わり、学習に力を入り始めた人もたくさん出てきたせいか、各クラス1ヶ月に100行を超える人も増えました！また1000行達成者も！！素晴らしい！
福本先生の指導が大きな助けとなりました。学習へのモチベーションを高め、英語ペーパーから文章に練習を定着させるのにもいいかもしれませんね。日本語→英語で英語力を高めよう！

今月頑張った人(300行以上取り組んだ人)

[1-1]	池田君(1050)・吉田君(1080)・西山さん(400)・藤野君(740)
	斎藤さん(500)・加藤君(400)・齋谷君(340)
[1-2]	野野君(550)・田代さん(380)・神田君(384)・坂田さん(350)
	井原さん(329)・茂田さん(500)・高橋さん(353)
	坂本君(422)・木村君(449)
[1-3]	金谷君(2008)・坂本君(1360)・平澤君(325)・青野君(433)
	平田さん(300)
[1-4]	田部井君(445)・高橋さん(600)・土屋君(300)・平塚君(430)
	井上君(650)

今月までに2000行超えた人

[1-3]	金谷君(2658)・真輪さん(2900)
[1-4]	森さん(2150)

今月までに1000行超えた人

[1-1]	池田君(1470)・栗田さん(1725)・吉田君(1770)
	西山さん(1200)・斎藤さん(1000)・福本さん(1255)
	藤井さん(1280)
[1-2]	五十嵐さん(1051)・野野君(1454)・田代さん(1380)
	神田君(1600)・坂田さん(1450)・茂田さん(1200)
	高橋さん(1153)・井原さん(1100)・木村君(1000)
[1-3]	坂本君(1587)・平澤君(1000)・青野君(1150)
	新井君(1085)・平田さん(1900)
[1-4]	田部井君(1510)・高橋さん(1618)・齋谷さん(1100)

(2) 小学校における英語活動との円滑な接続を図るための指導資料

1 指導事項について

平成20年3月に小学校学習指導要領が告示され、第5学年、第6学年でそれぞれ35時間の英語活動の授業時間数が定められた。それにより中学校ではコミュニケーション能力の素地を養ってきた生徒への指導が必要となる。ここでは、小学校における英語活動との円滑な接続を図るための指導事例を示す。

2 指導事例

(1) 内 容 フォニックス 短母音 (short vowel) が使われた単語の理解を図る。

過程	学習活動	学習内容	評価規準との関連	指導上の留意点
導入	1 母音5つの音の発音練習をする。	A says a, a apple. E says e, e egg. I says i, i ink. O says o, o octopus. U says u, u umbrella.	(省略)	・母音のカードを用意し、テンポは最初はゆっくりと練習させる。徐々にスピードを上げていく。数回行う。
	2 子音との組み合わせでオーラルプラクティスを行う。	例) b + a + g → b a g p + e + n → p e n b + i + g → b i g h + o + t → h o t c + u + p → c u p		・短母音のカード及び子音のカードを用意する。 ・必要に応じて子音の発音の練習も行う。 ・コーラスリーディングの後、子音を入れかえて様々なパターンを生徒自身の力で読ませる。
	3 聞き取り練習を行う。	二つの単語から正しい方を選ぶ。 例) 1 ア pen イ pin () 2 ア man イ men () :		・飽きさせないように、変化のある繰り返し練習を行い、読む自信をつけさせる。
	4 ゲームを行う。			・黒板に問題を掲げ、挙手させる。もしくはワークシートを用意し解かせてもよい。
展開				・グループに名前を付けると連帯感が生まれ楽しく活動を行うことができる。 ・単語カードでは理解が困難な生徒のために、ピクチャーチャートを補助的に用いるのも効果的である。
	5 聞き取りテストを行う。		・チェックは生徒同士ペアで行い、互いに確認し合う。	

○読ませ方 (例)
①全員が立ち、読めた人から座る。
②列毎に前 (横) から読ませ、早い列から座る。

○方法
*教師は単語カード (3のテストで行った単語を含む) を黒板にマグネット等で貼り付けておく。
①学級を二つに分ける。
②各グループよりひとりずつ順番に黒板の前に出てくる。
③教師が発音した単語を探し、最初にタッチした方が勝ち。
④勝った生徒が発音する。
⑤勝った生徒の後に、他の生徒は繰り返す。
⑥勝った生徒は、他の生徒が繰り返した後、席に戻る。
次の生徒が黒板の前に出てきて繰り返す。

◎小学校との接続について
小学校ではアルファベットのもつ音を系統的に学ぶことは少ないが、数多くの単語に慣れ親しんでいる。中学校の初期段階で音のルールについて学ぶことは小学校英語活動で触れてきたことを整理することとなり、今後の英語学習に極めて有効である。

(3) 内 容 自己紹介文を書き、自己紹介を行う

(2時間扱い ※学習活動2 中学校で学ぶ自己紹介の学習時期は、各学校の実態によって異なる)

過程	学習活動	学習内容	評価規準との関連	指導上の留意点
導入	1 自己紹介を行う。 (小学校で行ったもの)	Good morning/afternoon. Nice to meet you. Nice to meet you too. Thank you very much. You're welcome.	Five Fingers Speech 指導の手順	① 小学校で学んだ自己紹介の英文を発表させ確認する。 (※生徒の学んだ英文を認めていくことが大切である。) ② 5文を指にたとえて、日本語の部分のみ提示する。 ③ 個人練習をする。 ④ みんなの前で発表する(ビデオに撮っておく。)
Five Fingers Speech (例) 親指 あいさつ 人差し指 自分の名前 中指 出身地 薬指 好きなスポーツ (又は食べ物) 小指 お礼のあいさつ		Hello My name is Masaki. I'm from Kumagaya. I like tennis. (I like bananas.) Thank you.		◎発表者があいさつをしたら、同じあいさつで返させる。 ◎名前、出身地、好きなスポーツについては、「ハハーン」と英語らしく相づちを打たせると、盛り上がる。(インタラクションの基礎作り)
展開	2 中学校で学ぶ自己紹介 ①既習を活用し、生徒同士のインタラクションをしつける自己紹介(口頭) ②既習を活用し、まとまりのある英文を意識させる自己紹介 ア 自己紹介①②を聞く。 イ 自己紹介①②の違いを発表する。 ウ まとまりのある(つながりのある)英文の形を知る。 エ 例示を繰り返し口頭練習する。 3 英文を書く。	<div data-bbox="639 779 1018 936" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;"> 温かい英語授業の雰囲気作り (◎の部分) </div> <div data-bbox="539 994 895 1223" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 自己紹介① Hi, My name is Masaki. I like tennis. I have a pet. Thank you very much. </div> <div data-bbox="539 1256 895 1485" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 自己紹介② Hi, My name is Masaki. I like sports. I play tennis every day. Thank you very much. </div> <p>・まとまりのあることの表現方法 大きなこと(例:スポーツ)を言う ってから、具体的なこと(例:テニスに関係したこと)を言う</p> <p>like sports - play . . . watch . . . like banana - eat . . . cook</p> <p>Hello. My name is Masaki. I like hamburgerers. I go to ハンバーガーショップ on Sundays. Thank you very much.</p>	(省略)	◎お礼の後は、全生徒に You're welcome.と返させる。 ◎「Next speaker is Keiko.」と、司会者(教師又は生徒)がアナウンスしたら、すぐに拍手をさせると盛り上がる。発表が終わったらすぐに拍手をすると、温かい授業の雰囲気が醸成できる。 ◎小学校との接続について 自己紹介は外国語の入門時に使われ、小学校英語活動においても簡単な表現を用いた自己紹介をすでに行っている。中学校ではそれらの内容を含め、改めて自ら書いて文字化し、表現の幅を広げることが重要である。 書く活動に入る前に、十分口頭練習をし文字を音声化しておきたい。 辞書の活用も有効である。 ・一般動詞の組み合わせを行いながら、一般動詞の語いを増やすことも可能である。 ・Five Fingers Speechを、まとまりのある英文に修正させる。 自己紹介の生かし方 ①カードに記入させる。教師がカードを読み上げ、Who am I?ゲームを行う。 ②三人称を学習する時に主語を He や She にかえて他者を紹介すると再活用できる。 ③作り話でもおもしろい活動になり、書く意欲付けにもなる。 ④作成したカードを掲示物としても活用できる。

(3) 4技能を総合的に育成するための指導資料

1 指導事項について

コミュニケーション能力を育成する際に、4技能を総合的に用いる活動を行うことは重要なことである。英語学習の入門期では、特に「話すこと」や「聞くこと」が重視されるが、次第に「書くこと」や「読むこと」の活動を積み重ね、バランスよく身に付けさせる必要がある。

ここでは、第3学年で学習する言語材料を用いて、日本の物を英語で紹介することを目標に設定し、1つの単元の中で、「読むこと」を通して多くの表現例に触れ、「書くこと」、「話すこと」による表現を促す指導事例を紹介する。特に多用する言語材料は、受動態や分詞句、関係代名詞節による後置修飾が考えられるが、その中で、受動態を取りあげた。

2 指導計画例

本事例は、第3学年で学習する言語材料を用いて、日本の物を英語で紹介することを目標に設定している。特に、多用する言語材料は、受動態や分詞句、関係代名詞節による後置修飾が考えられる。ここでは受動態を新出言語材料として導入した後、4技能を総合的に指導する。

- (1) 指導学年 : 第3学年
- (2) 指導時期 : 受動態導入時
- (3) 指導過程 : 6時間扱い

時	学習活動・学習内容	評価規準			
		コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・受動態の導入と練習 ・§1の内容理解 ・多読活動① 受動態を用いたまとまりのある文章を読んで、受動態の用法や言語構造を理解し、文章の概要をとらえる。【資料1】 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に練習や読解活動に取り組んでいる。 〈S〉〈L〉〈R〉 		<ul style="list-style-type: none"> ・本文や日本の物を紹介する英文の概要を正しく理解できる。 〈L〉〈R〉 	<ul style="list-style-type: none"> ・受動態の文構造を正しく理解している。 〈S〉〈R〉
2	<ul style="list-style-type: none"> ・前置詞句を伴う受動態の導入と 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に対話練 		<ul style="list-style-type: none"> ・本文の概要につ 	<ul style="list-style-type: none"> ・受動態の文構造
3	<ul style="list-style-type: none"> ・多読活動② 日本文化についてのまとまりのある文章を読んで、その内容を理解する。【資料2】 ・ショート・スピーチ① 日本の物について5つの文のスピーチを即興的に作成し、練習する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・日本の物の用途や特徴を正しく表現している。 〈W〉 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとまりのある英文の概要を正しく理解できる。 〈R〉 	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・間接目的語に不定詞句を用いる、 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に対話練 		<ul style="list-style-type: none"> ・本文の概要や筆 	<ul style="list-style-type: none"> ・名詞句の構造を
5 ・ 6	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチ 「日本の物を紹介しよう」 【資料3】 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手に伝わる話し方をしている。 〈S〉 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の意見を適切に表現している。 〈S〉 		

3 指導事例

(1) 本時の指導

ア 本時のねらい

- ①異文化での生活に困惑する留学生の心情を読み取ることができる。
- ②受動態の文の意味や用法、言語構造を正しく理解することができる。

イ 教具 : コンピュータ、教材提示装置、読解教材

過程	学習活動	学習内容	評価規準との関連	指導上の留意点
W-up 10分	1. あいさつ 《一斉》 2. 歌 《一斉》 3. ウォーム・アップ 《ペア》	(省略)	(省略)	・英語の授業の雰囲気をつくる。
導入 15分	4. 新出文型の導入 《一斉》 (1) 口頭導入 (2) 意味の確認 (3) 模倣練習 (4) 文型の説明 5. 文型練習 《一斉・ペア》 (英文の一部を入れ替える) (1) be 動詞の選択 (2) 過去分詞の入れ替え (3) 3文解説 絵を見てそれを相手に説明する練習	(絵の一部を提示) What is this ? This is tatami. It is seen in Japanese houses. (3文解説) ①情報を絞り込む1文で構成する。 It is a building. ②特徴を説明する2文で構成する。 It is seen in Tokyo. It is very tall.		・物を話題の中心に据えるよう留意しながら、自然な場面を設けて目標文を導入する。 ・必要に応じて目標文を繰り返して聞かせる。 ・説明していた物を提示するとともに、ヒントの内容を想起させる。 ・目標文を正しいリズムで言わせる。 ・文構造を説明する。 ・手際よく提示し、練習量を確保する。 ・主語や時制を変えながら正しい be 動詞を選択させ、正しく言わせる。 ・意味を正しく表現する過去分詞を使わせる。 ・受動態の文を正しく言えるよう、be 動詞と過去分詞に留意させる。 ・説明する物を提示し、受動態を用いてその説明をする。 ・積極的に練習に取り組めるよう個別指導をする。
展開 20分	6. 本文の内容理解 《一斉・ペア》 (1) 新出語句の口頭導入 (2) 本文の概要の導入 (3) 黙読 (4) 音読 7. 『これなあに?』 《一斉・ペア》 (1) 日本の物を説明した読解教材を提示する。 (2) 受動態表現を指摘させる。 (3) 説明しているものを推測させる。	※ 【資料1】参照		・手際よく提示し、練習量を確保する。 ・登場人物の心情に留意させる。 ○受動態を用いた本文の概要を正しく理解できる。 <L><R> (理) [記述分析] ・登場人物の心情を表現する読み方をさせる。 ・必要に応じて個別指導にあたる。 ○受動態の文をあげることができる。 <R> (言・文) [記述分析] ・積極的に練習に取り組めるよう、必要に応じて未習語の意味を示す。
整理 5分	8. 学習の整理 《一斉》 (1) ノート整理 (2) 学習の見通し 9. あいさつ 《一斉》	(省略)		・正しく書き取らせる。 ・本時の活動についてのコメントを与え、次時の予告をする。

(5) 指導上の留意点

- ア 受動態を用いて表現している説明文章を多く読ませることにより、頻繁に用いられる語いや用例を十分に示すとともに、例示させたり用途を明確に示させたりしながら、正しく伝えるための表現を工夫させる。
- イ 読解教材としては他の中学生（ここでは過年度の生徒）が作成した易しいものを取りあげる。また英英辞典や、観光地の外国人向けパンフレットなども、まとめりがあり、推測しやすい題材と考えられる。

4 評価の観点

コミュニケーションへの関心・意欲・態度

：積極的に練習や読解活動、スピーチに取り組んでいる。（聞くこと、話すこと、書くこと、読むこと）

表現の能力：日本の物の用途や特徴を正しく表現している。（書くこと、話すこと）

理解の能力：受動態を用いた本文や、説明文章の概要を正しく理解できる。（読むこと、聞くこと）

言語や文化に対する知識・理解：受動態の文構造を理解している。

5 資料

【資料1】授業で取りあげた読解教材の例（豆腐）

This is a kind of Japanese food. It is made from soy beans. It is white and soft. It is delicious and good for our health. It is often eaten with soy sauce. This is called *hiyayakko*. It is also seen in *miso*-soup and many kinds of Japanese *nabe* dish.

過年度生徒の作成

【資料2】多読活動に用いた読解教材の例

課題1 この英文が表すものを推測しよう！

課題2 文章中から受動態の表現を探して、下線を引こう！

② It is a kind of food. It is used as a spice. It is eaten with *suhsi*, *sashimi*, and so on. It is spicy, so many children eat sushi without it. This kind of *sushi* is called *sabi-nuki*.

It grows in the small cold clean rivers. Outside of it is light brown, and inside is light green. We eat the green part. When we eat a lot, you will be excited!

課題1 この英文が表すものを推測しよう！

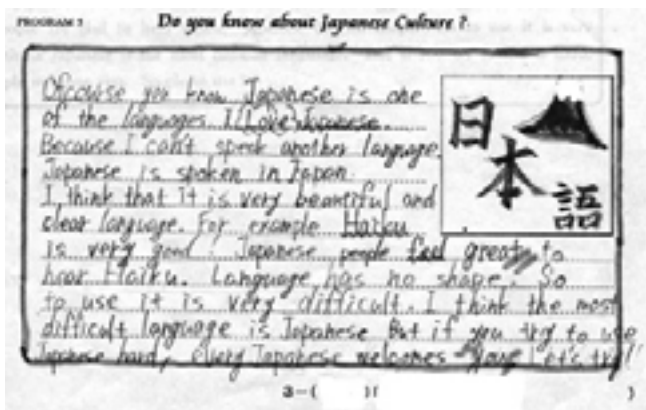
課題2 文章中から受動態の表現を探して、下線を引こう！

課題3 () に補う語を考えてみよう！

⑤ It is a Japanese (). It was often used long ago. Today it is used in festivals. It is also used to decorate Japanese bars.

It is made of paper and wood. It looks like a balloon. And inside of it, a candle is set. It was used when they walk on the dark way at night.

【資料3】スピーチの例



日本文化紹介（生徒発表の音声おこし）

Hello, everyone. I'll speak about Japanese. Of course, you know that Japanese is one of the languages. I love Japanese because I can't speak any other language. I think that Japanese is ... Japanese is very beautiful and clear language. For example, *haiku* is very great. Japanese people are very glad to hear *haiku*. Japanese has no shape. So to use it is very difficult. I think Japanese is the most difficult language. But if you try to use it hard, Japanese people welcome you. So please use it.

(4) 複数の技能を総合的に活用し、コミュニケーション能力を高めるための指導資料

事例1

1 指導事項について

英語による表現力の向上を図り、コミュニケーション能力を高めるためには、英語で言える表現をより多く身に付け、実際にアウトプットすることが重要である。

本事例では、生徒の自由な発想で書く活動を通し、表現力の向上を図るとともに、英語で表現した内容を聞くことにつながることでコミュニケーション活動の基盤となる聞く力の向上を図る事例を紹介する。

2 指導計画例 以下に示す事例（__部）は、単元のまとめとして扱うものである。

活動内容	学習のねらい
単元の学習 基本表現の習得(毎時間) 【下記3(6)参照】	・言語材料について理解し（定着を図ることにより）運用（できるように）する。また、本文の内容について理解する（ことができる）。 ・基本表現の習得を図ることを通し、英語による表現の範囲を広げ、表現力の向上を図る。
単元の復習	・本単元の言語材料の確認をする。 ・本単元の言語材料を使ってコミュニケーション活動を行うことができる。
英文の作成	・絵について本単元の言語材料等を英語で表現することができる。
発表	・発表内容やALTの質問を聞き取り、正しく応答することができる。

3 指導事例

(1) 目標

ア 単元で学習した言語材料や既習の表現を用いて、絵の中の人物や様子を英語で表現することにより書く力を養う。

イ 個々の発表内容を聞き取ることを通し、英語を聞く力や英語で応答する力の向上を図る。

ウ 言語材料の定着とコミュニケーション能力の向上を図る。

(2) 主な言語材料 現在形 現在進行形 過去形 過去進行形 未来形 現在完了形 助動詞 動名詞等

(3) 学習段階 第1・2・3学年

(4) 指導形態 ALT との Team-Teaching

(5) 指導過程

過程	学習活動・学習内容	指導上の留意点
復習 15分	・あいさつ ・歌 ・基本表現【下記(6)参照】 ・言語材料と基本表現を組み合わせた表現活動	・英語の授業の雰囲気をつくる。 ・フラッシュカードやピクチャーカードを使って、全員から個人へ発音させる。
展開 30分	・グループ（1グループ5人～7人）発表【下記(7)参照】 ・ALTとグループ発表者のQ and A ・ALTとグループ発表者以外の生徒とのQ and A	・2～3班の発表とする。 ・発表時の注意事項を再確認する。 ・ALTから生徒自身のことについての質問（How about you?等）も行う。
整理 5分	・自己評価 ・あいさつ	・自己評価に加え発表者に対する評価も行う。

(6) 表現力を養うための基本表現を身に付けさせる活動例

〈活動のねらい〉

- ・一般動詞を中心に、意味のあるまとまりで覚えることにより、表現できる範囲を広げることができる。
- ・下記(7)の活動や、自己表現活動につなげる。

基本表現例：clean the room listen to music help my mother read a book play the piano など 約50個の表現

〈指導の手順〉

- ①毎授業で繰り返し行う。フラッシュカードやピクチャーカードを使い1時間の授業で扱う表現は10個程度とする。
- ②英語で言えた表現については、基本表現一覧表にチェックを入れ、身に付いていない表現を個々で確認させる。
- ③定期的に20題程度の書き取りテストを行い定着度の確認を行う。

(7) 言語材料と基本表現を活かし、表現力を高め、聞くことに結び付けた活動例

〈活動のねらい〉

言語材料の定着と表現力の向上を図るための活動である。さらに、友人の発表を聞き、その内容についての Q and A を行うことで、聞く力と英語で応答する力の向上を図ることができる。

〈指導手順〉

- ①各班に違う種類の絵を配布する。
(ポイント制でグループ対抗とする。)
- ②各班のメンバーは、絵の中の人物等について一人3つ以上の英文を使って表現する。

※留意点

・単元の学習内容から言語材料を決め、それを使った表現を必ず1文以上は作成させる。

(事例については、未来形 be going to ~)

・イメージをふくらませて、絵にある事実以外の内容について表現してもよい。

・英文の内容は、他の班員との関連性を持たせ、1つのストーリーとして作り上げても良い。

- ③班ごとに発表する。発表は、班員一人ずつ行いポイント制とする。発表者は、絵を指し示しながら発表する。

(基本ポイント3点、4文以上または英文の内容により4点以上、個人のポイントの合計点が班としての得点)

- ④発表後、班の各メンバーに対して、発表内容や絵の内容について ALT との Q and A を行い、ポイント制とする。

(基本ポイント1点、答えの内容により2点以上、個人のポイントの合計点が班としての得点)

※留意点

・ALTからの質問は、Yes, No questions, easy “WH” questions, a little difficult “WH” questions をバランスよく準備しておき班員全員が答えられるようにする。

- ⑤ ALT から発表班以外の生徒との Q and A を行う。質問内容は、発表者の内容や絵に関する内容とする。



指導手順③ 生徒の発表例

Student A: This boy is reading books every day. He has many books. But all his books are *Doraemon*.

He likes *Doraemon* very much. He is going to read *Doraemon* after dinner.

Student B: This is Kumi. She was playing the piano when her mother was cooking dinner yesterday.

This is Yoshio. He likes to watch soccer games. He is going to go to a soccer stadium tomorrow.

Student C: She is thirty eight years old. She is cooking for her family. This room is always clean. Because she cleans this room every day. Tomorrow is her birthday. Her son is going to help her tomorrow. He is going to clean the room.

Student D: She was very beautiful sixty years ago. She likes music. When she listens to music, she remembers her boy friend. She is going to meet her boy friend next Sunday. など

指導手順④ 発表グループに対する ALT の質問例

- (1) Does he watch *Doraemon* on TV every week? How about you?
- (2) Does she play the piano every day? Is she a good pianist?
- (3) What is the grandmother doing?
- (4) What meal is the mother cooking? Is that breakfast, lunch or dinner?
What meal do you like? など

指導手順⑤ 発表グループ以外の生徒に対する ALT の質問例

- (1) What is his name? What is your name?
- (2) Does she speak English well? How about you?
- (3) Is this room always clean? Why? Is your room always clean?
- (4) Is he going to go to a soccer stadium tomorrow? What are you going to do tomorrow? など

事例2

1 指導事項について

コミュニケーション能力を育成するためには、その基礎となる力を育成していくことが不可欠である。文法・語い・音声は、コミュニケーション能力を支えるものとしてとらえ、音読指導を通してこれらを育成するための指導事例を紹介する。また、音読を通して培った力を話す・書くといった表現活動にもつなげていけるような活動例も紹介する。

2 指導計画例

学習段階	学習のねらい
1 内容理解	教科書の本文を教師によるオーラルイントロダクション、オーラルインタラクション（音声言語による導入）や黙読（文字言語を通しての理解）、必要に応じて加えられる解説を通して理解する力を養う。
2 基礎的な音読	Chorus Reading, Buzz Reading, Individual Reading など様々な音読方法を取り入れ、教科書の本文を繰り返し音読させる。単純な繰り返し活動になりがちになるので、何度も読ませる工夫が必要である。文字言語を音声化できる力を養う。
3 発展的な音読	教科書の本文から少しずつ目を離して、英語を頭に残していく練習を Read and look up などの手法を用いて行う。
4 表現活動	学習した文章を絵やキーワードを手がかりにして、口頭または書いて再生する活動を行い、表現する力を養う。

3 指導事例

以下に示す事例は、多くの授業で毎時間行われる文字を音声化する基礎的な音読から、少し負荷を上げ頭の中に英語を残す練習を行い、最終的には「書くこと」「話すこと」につなげていく活動である。この活動を継続的に行うことで文法・語い・音声の定着を図り、コミュニケーション能力の基礎を育成することができる。

(1) 基礎的な音読の指導例

〈活動のねらい〉

コミュニケーション能力の基礎として、文字を音声化する力は必要不可欠なものである。基礎的な音読を繰り返し行うことで、強勢やイントネーションなどに注意しながら英語らしく発音できるようにする。基礎的な音読は単調な練習活動になりがちなので、音読方法を工夫し、飽きさせずに活動に取り組ませることが必要である。

ア Chorus Reading

音読指導の最初に行われる指導法で教師またはCDなどの後について生徒が一斉に読む活動である。この活動は1文、意味の区切りごとに生徒に復唱させる。学習の入門期の生徒に対しては、1語ずつ読ませる活動も有効である。1文が長く、なかなか1度に読むことが難しい場合は、文の後ろからまとまりごとに読ませるとリズムを崩さず読むことができる。（Back-up Technique）

(例) Many young girls like wearing *yukata* at summer festivals. を正しく音声化させる。

- ① summer festivals
- ② like wearing *yukata* at summer festivals
- ③ Many young girls like wearing *yukata* at summer festivals.

イ Buzz Reading

Chorus Reading の後に行い、自分自身のペースで練習させる活動である。自分が音声化できないところを確認させたり、繰り返し読ませたりして音声に慣れさせる。この活動を行う際に、生徒を立たせ1回読むごとに90度ずつ方向を変えていく。4回読み終わったら着席する（回転読み）などの工夫をすることで、生徒は周りの友だちを意識し積極的に活動するという効果が期待できる。

ウ Overlapping

教科書を見ながら CD などから流れてくる音声に合わせて本文を読む活動である。流れてくる音はペースメーカーの役割を果たす。リズムやイントネーションを意識させることができる。

エ Changing situation

ダイアログを繰り返し練習させたいときに、ただ繰り返すだけでは飽きてしまうので、ダイアログは変えずに場面設定を変えて行う活動である。図書館や駅のホームなど場面を変化させたり、怒ったり、楽しそうにしたりなど感情に変化を加えたりすると、単調になりがちな練習に変化・面白さが加わる。

オ 音読リレー

ペアを作り背中合わせに立たせ、一人の生徒が音読を始める。教師の合図で最初に読んでいた生徒は読むのを止め、もう一人が読み始める。集中して聞いていなければ自分の読む位置がわからなくなるのでお互いにしっかり読めるようになる。

(2) 発展的な音読の指導例

〈活動のねらい〉

基礎的な音読を十分に行い、文字を音声化できるようになった後で頭の中に少しずつ英語を残すことをねらった活動である。

ア 穴埋め音読

テキストに空欄をあけたプリントを用意し、その空欄を埋めながら音読していく。何を空欄にするかによって生徒の負荷が変わってくるので実情に合わせた教材の作成が必要である。

<p>Last summer twenty students from a sister city in Australia () Japan. They () to Tokyo and then () to my city. For the last three days each student () with a Japanese family. Diana () with us. My family () her and enjoyed talking with her.</p> <p>Her Japanese was very good because she was () Japanese in her school.</p>	<p>去年の夏 オーストラリアの姉妹都市から20人の生徒が日本を訪れた。 彼らは東京に行って、私の市に来た。 最後の3日間 各々の生徒は日本の家庭に滞在した。 ダイアナは私たちの家に滞在した。 私の家族は彼女を歓迎し、彼女とのおしゃべりを楽しんだ。 彼女の日本語はとても上手だった。 なぜなら、彼女は学校で日本語を勉強していたから</p>
--	--

イ Read and Look up

教師の“Read”という合図でテキストを1文または意味の区切りごとに黙読し、“look up”の指示で顔をあげ、黙読した部分を、テキストを見ないで読む活動である。生徒の状況に合わせて1度に言わせる量を増やしたり、“look up”の後に数秒時間をおき、“say”の合図で言わせたりして、記憶力の強化につなげることもできる。

この活動は、文字を見ながら発音させる基礎的な音読の段階から、実際に話すという活動につなげる役割を果たしている。

(3) 表現活動の指導例

〈活動のねらい〉

発展的な音読活動を行った後で、その文章を教科書を見ずに書いたり、言ったりする活動である。この活動を行うことで、新出語いや文法事項などを自分なりに考えて使わせることができる。

ア Reproduction

学習した教科書の内容を見ずに、口頭または書いて再生させる活動である。この活動を行う際には、テキストの中に出てきた Key Word や内容を表した写真や絵などを参考にして行う。再生をさせる時には、暗唱と異なりテキストを一字一句同じに書かせる必要はない。むしろ自分なりの表現や感想などを入れることができると、実際のコミュニケーションに近づけることができる。

〈プリント例〉

<p>Picture Chart 1</p> <p>Sister city in Australia</p>	<p>これらの言葉を ヒントにして Reproduction を 行う。</p>	<hr/> <hr/>
<p>Picture Chart 2</p> <p>Japanese family</p>	<hr/> <hr/>	

〈生徒作品〉

Last summer, 20 students from a sister city in Australia visited Japan. They went to Tokyo and came to my city. For last 3 days, students stayed with Japanese family. Diana came to my house. My family welcomed her and enjoyed talking. She was studying Japanese in her school, so she could speak Japanese very well. She was interested in Japanese culture.

(5) 文法指導を言語活動と一体的に行うための指導事例

1 指導事項について

言語活動では、実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動が重要であるが、それを支える言語材料について理解したり、練習したりする活動も必要である。言語を使用する活動を強く指向するあまり、発音の基本、語句や文の構造についての指導がなおざりにされることがあってはならない。

また、これとは逆に、言語材料について理解したり練習したりする活動に終始し、その結果、言語を使用する活動そのものが不十分になることのないように配慮する必要がある。

本事例では、言語活動と文法指導のバランスを意識しつつ、指導する言語の使用場面や言語の働きに配慮した事例を紹介する。

2 指導事例

以下に示す事例は、互いに意見を述べ合い、休日の行動について話し合うというコミュニケーション活動である。そこで必要な言語材料について、基礎となる文法的な説明を行い、反復練習をするなど、生徒の理解を助けるための活動を取り入れる。これにより、言語活動と文法指導のバランスのとれた指導が可能となる。

(1) 展開例「友だちとどこに行って何をしたいか話し合おう」

ア 目標

- ① 既習の様々な表現を用いて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。
- ② 話し合いにおいて自然な対話の流れが組み立てられるように、言語の使用場面や働きを理解し、適切な場面で適切な表現が使えるようにする。
- ③ 自分の考えを伝えたり、相手の意見を聞いたりする活動では、その表現を支える文構造を正確に理解する。

イ 言語の使用場面

- 生徒の身近な暮らしにかかわる場面
 - ・学校での学習や活動
 - ・友だちとの話し合い ・計画作り

ウ 言語の働き

- 考えや意図を伝える
 - ・意見を言う ・賛成する ・反対する
 - ・承諾する ・断る

エ 主な言語材料：不定詞名詞的用法

オ 指導学年：第2学年

カ 指導形態：ALT との TT

キ 活動時間：50分

ク ワークシート：【資料】



【資料】 ワークシート例

過程	学習活動	学習内容	評価規準との関連	指導上の留意点
	1 あいさつ	(省略)	(省略)	
導入	3 新出文型の導入 (1) ALTとJTEによるスキット	ALT : I lose my way in this desert. I'm very thirsty. I want to drink water! Are there any shops near here? Oh, I can see a shop over there! JTE : Hello. May I help you?	・生徒たちの興味・関心を引くような導入を心がける。 ・新出文型である want to ~を使った文の意味を、生徒たちが容易に推測できるような工夫する。	

<p>15分</p>	<p>(2) 内容の確認</p> <p>(3) 目標文の練習</p> <p>(4) 文型説明</p> <p>4 パターンプラクティス</p> <p>(1) want to に続く表現を変えた文型練習</p> <p>(2) ペアワークでの文型練習</p>	<p>ALT : Yes! I want to drink water! I'm so thirsty!</p> <p>JTE : All right. Water is \$100.</p> <p>ALT : What? \$100? It's too expensive!</p> <p>JTE : Then how about this beer? It's only \$1.</p> <p>ALE : OK!</p> <p>I want to buy beer! I want to drink beer!</p> <p>JTE : Well..., how old are you?</p> <p>ALT : Huh? I'm 14 years old. So what?</p> <p>I'm really thirsty! Hurry up!</p> <p>I want to drink something!</p> <p>JTE : I'm sorry. I can't sell beer.</p> <p>You're under 20!</p> <p>・ I want to drink water.</p> <p>・ 板書例</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>不定詞 to + 動詞の原型</p> <p>名詞的用法 want to ~ 「～したい」</p> <p>※自分の意思を相手に伝える表現</p> <p>I want to drink water.</p> </div> <p>ALT : Where do you want to go?</p> <p>S 1 : I want to go to Australia.</p> <p>ALT : What do you want to eat?</p> <p>S 2 : I want to eat sushi.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スキットの場面や内容を確認しながら、新出文型の意味を確認する。 ・目標文を正しいリズムで言わせる。 ・新出文型の文構造について、板書等しながら明確に説明する。また ALT が易しい英語で説明する。 ・目標文の言語の働きと言語の使用場面を明確に示す。 ・表現を単に繰り返すのではなく、生徒に質問し、出た答えを全員でリピートするなど工夫する。 ・不定詞の文構造を理解させ、正しく言わせる。
<p>展開 20分</p>	<p>5 「友だちとどこに行って何をしたいか話しあおう」</p> <p>(1) 活動の説明</p> <p>(2) モデルの提示</p> <p>(3) ペアワーク</p> <p>(4) 自分たちの行きたい場所ややりたいことをワークシートに書く。</p>	<p>A : Shall we go out this weekend?</p> <p>B : Oh, yes.</p> <p>A : Where do you want to go?</p> <p>B : I want to go to Akihabara.</p> <p>A : OK./ I don't want to.</p> <p>B : What do you want to eat for lunch?</p> <p>A : I want to eat pizza.</p> <p>B : OK./ I don't want to.</p> <p>A : What do you want to do?</p> <p>B : I want to see a movie.</p> <p>A : OK./ I don't want to.</p> <p>B : I'll call you later.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような活動をするのかわかりやすく説明する。 ・活動について ALT と JTE がモデルを示す。 ・ワークシートの会話だけでなく、既習の表現を積極的に使って会話するよう促す。 ○不定詞の文を用いて、自分のしたいことなどを正しく言うことができる。 <li style="text-align: center;">〈S〉〈L〉(言・文) [観察] ・積極的に言語活動に取り組みさせる。 ○不定詞の文を用いて、正しく書くことができる。 <li style="text-align: center;">〈W〉(言・文) [ワークシート]
<p>整理 5分</p>	<p>6 学習の整理</p> <p>7 あいさつ</p>	<p>(省略)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動について評価する。

(6) 小学校英語活動との接続への配慮事項

指導計画の作成に当たっては、小学校における英語活動の内容や指導の実態等を十分に踏まえ、中学校での英語教育への滑らかな接続を図ることが必要である。そのために、まず、小学校英語活動の内容を正しく理解することが求められる。さらに、地域の小学校における英語活動の指導において、どの程度の素地が養われているのかを理解するとともに、扱われている単語や表現についても把握することが大切である。

そこで、以下のような小・中学校間の連携を図る取組が考えられる。なお、中学校区に複数の小学校がある場合には、教育委員会の指導の下、中学校が中心となって校区内の連携を進めていくことが求められる。

① 小学校英語活動の内容理解

- ア 小学校学習指導要領及び小学校学習指導要領解説（外国語活動編）を通して英語活動の内容を理解する。
- イ 小学校で扱っている「英語ノート」等の教材の内容を把握する。
- ウ 英語活動の年間指導計画を確認し、指導内容の系統性に配慮する。

② 小学校教員との交流による英語活動の内容や指導方法等の把握

- ア 小・中合同研修会等により英語活動の指導内容や児童の様子について情報を得る。
- イ 小学校英語活動の授業参観や、英語活動の授業でのチームティーチングを行う。

③ 中学校外国語科の指導の実際や生徒の学習の様子の伝達

- ア 中学校外国語科の年間指導計画を接続する小学校へ渡す。
- イ 中学校外国語科の授業を小学校英語活動の担当者に参観してもらう。

④ 小・中の年間指導計画を持ち寄っての5年間の指導カリキュラムの作成

(7) 評価への配慮事項

① 評価の基本的な考え方

評価を行うに当たっては、学習指導要領に示す目標に照らして、その実現状況を見る評価（目標に準拠した評価、いわゆる絶対評価）を一層重視し、観点別に生徒の学習到達度を適切に評価していくことが重要となる。評価は、学習の結果に対して行うだけでなく、学習指導の過程における評価の工夫を一層進めることが大切となる。生徒一人一人が目標に照らし、少なくとも「おおむね満足できる」と判断される状況を実現するための指導を徹底することが求められる。したがって、各学校においては、特に、学習指導の過程における評価を重視し、「努力を要する」状況にある生徒に対しては、教師から様々な働きかけを行ったり、手立てを講じたりする必要がある。さらに、「おおむね満足できる」と判断される生徒に対しては、「十分満足できる」状態に高める手立てを講じることも大切である。

② 評価規準作成の手順

目標に準拠した評価を行うには、次のような手順に従い、単元の目標や評価規準から単位時間の評価規準を設定することが必要である。その際には、国立教育政策研究所の「評価規準の作成，評価方法の工夫改善のための参考資料－評価規準，評価方法等の研究開発（報告）」を参照されたい。

- ア 指導目標の明確化：各単元の指導計画を作成する際、学習指導要領に示す外国語科の目標及び内容を分析し、観点毎に単元の目標を設定する。
- イ 単元毎の評価規準の設定：単元の目標の実現状況を把握できるようにするために、単元の指導内容に即した評価規準を設定する。目標に到達した生徒の姿（生徒の変容した姿）を具体的にイメージして、生徒がその状態にあるかどうかを判断する拠り所となるものが評価規準である。
- ウ 単位時間における具体的な評価規準の設定：単位時間毎に、単元の評価規準をより具体化した評価規準を設定する。その際、本時の目標に照らし、生徒が目標に達した状態にあるかどうかを見取ることのできる具体的な規準とする。評価規準には、学習内容と言語活動、到達目標の3つを含めるとともに、評価方法と評価の場面を明確にする必要がある。
- エ 評価規準の設定とともに、「努力を要する」状況にある生徒に対する具体的な支援の手立てと、「おおむね満足できる」と判断される生徒に対して、「十分満足できる」状態に高めるための手立てを準備する。指導と評価の一体化を図るためには、ここまでの準備が必要となる。